

特徴 中小企業個々のIT導入 → 産業全体のデータ連携・活用 → 産業全体の生産性・競争力強化

ステップ1 気づき

IT活用による生産性向上の「気づき」を得る

ステップ2 導入

生産性向上に取り組みITツールの導入を計画

ステップ3 活用

ITツールの使い方等を試行錯誤しITツール導入の効果を実感

● 「地域拠点」の特色ある支援

【例】ミッテルシュタット4.0

【中核拠点】

大学・公的研究機関等と連携し、各地の産業構成と密接に関連した特色ある支援を実施（ショールーム、テストベッド、相談・情報機能）

※ 各地の産業構成に特化、地域ニーズに結びつけた支援内容を展開。拠点間で情報共有・連携ネットワークを構築

● 「業務プロセス」の見直し支援

【例】Go-Digital補助金

【業務プロセス】

IT導入の前段階で業務プロセス見直しを支援

※ 導入前に、導入目的の明確化、課題特定、業務プロセス見直し等を、ITコンサルタント等が中立的立場からコンサルティングすることにより、IT導入・活用の（費用対）効果を向上

● 推奨「ITツール」の提案・提供

【例】Plug-and-Play構想 Usability

【設備・機器】

簡易・低価格で導入可能なITツールを普及

※ 導入時のハードル（費用・人材・意識面）を下げ、継続して活用・更新しつづけることを容易に

【ソフトウェア】

中小企業が使いやすい優れたITツールを推奨

● 「EDI」の整備、標準化・共通化

【例】eStandard

【標準化】

中小企業が活用可能なEDIを業種別・取引関係別に整備

※ 中小企業向けの新規EDI開発や既存EDI拡張を通じ標準化・共通化を推進

● 中小企業 の「集団化」ITサービスの「共同化」により 企業間のデータ連携・活用を推進

【企業間データ連携・活用】

- 複数の中小企業が地域・業種等で集まり、共同でITサービスを導入・活用するよう誘導
※ 地域の支援機関、金融機関、商工会・商工会議所等が中小企業の集団化を率先
- クラウド技術等を活用して中小企業向けITサービスを共同化、企業間データ連携を促進
※ 「業務プロセス」「ITツール」「EDI」の標準化・共通化が、ITサービス共同化のきっかけに
- ITサービスを通じて蓄積されるデータの活用の仕組み・ルール化